RICEBALL SEMINAR

ライスボールセミナー

大学院ウィーク連携企画　大学院生による発表月間！

【日時】11月火曜日・12月第1火曜日 /12:20-12:50

【会場】創思館1階カンファレンスルーム

参加費無料・おにぎり付

多数ご参加いただいた場合、おにぎりの品切れ、
および入場制限が発生する場合がございます。あらかじめご了承ください。

2018. 11/12

vol.14 11/6 tue.

「声」と出逢いなおす物語ー声の多様な可能性を求めて

[講師] 近藤 優佳（応用人間科学研究科 修士課程）　[指導教員] 森岡 正芳（総合心理学部　教授）

vol.15 11/13 tue.

子どもの足を速くするには？

[講師] 鳥取 伸彬（スポーツ健康科学研究科　博士課程後期課程・日本学術振興会特別研究員 DC1）

[指導教員] 藤田 聡（スポーツ健康科学部　教授）

vol.16 11/20 tue.

戦中期の新聞・婦人雑誌におけるファッションとしてのモンペ

[講師] 枝木 妙子（先端総合学術研究科 一貫制博士課程・日本学術振興会特別研究員 DC2）

[指導教員] 竹中 悠美（先端総合学術研究科　教授）

vol.17 11/27 tue.

口絵にみる近代木版出版文化

[講師] 常木 佳奈（文学研究科 博士課程後期課程・日本学術振興会特別研究員 DC2）　[指導教員] 赤間　亮（文学部　教授）

vol.18 12/4 tue.

“コミュニケーション能力”に翻弄されるわたしたち

[講師] 野島 晃子（先端総合学術研究科 一貫制博士課程）　[指導教員] DUMOUCHEL Paul G.（先端総合学術研究科　教授）

講師紹介

“大学ではどんな研究が行われているのだろう？”と思ったことはありませんか？
ライスボールセミナーは、お昼の休み時間におにぎりを食べながら、若手研究者による研究発表を聞いて、自由にディスカッションを楽しむセミナーです。学生でも教職員でも、どなたでも気軽に参加していただけます。
お昼のちょっとした空き時間に、是非のぞいてみてください。お茶やおにぎりをご用意してお待ちしています！

近藤 優佳（応用人間科学研究科 修士課程）

「声」と出逢いなおす物語ー声の多様な可能性を求めて

■ **専門分野**　臨床心理学・音声メディア論

■ **研究者の道に進んだきっかけ**　大学進学から声の仕事を始めて今年で６年目になりますが、声を出発点とした疑問や好奇心は日々尽きることがありません。声にまつわる様々な視点を探求しながら今後も仕事を続けていきたい、いうなれば、研究者であり実践者として声のプロフェッショナルを目指していきたいと思ったことがきっかけです。

■ **研究内容紹介**　声は、心身の状態を細やかに反映し、これまで生きてきた環境との相互作用の中でその個性が方向づけられると言われています。自分というものを形づくる上で切っても切り離せない存在である声ですが、実のところ、あまり意識されてはいません。そこで今回は、声を活かした職業を目指す若者への調査をもとに「自分の声とは一体どのようなものか？」を一緒に考えていきたいと思います。

鳥取 伸彬（スポーツ健康科学研究科　博士課程後期課程・日本学術振興会特別研究員 DC1）

子どもの足を速くするには？

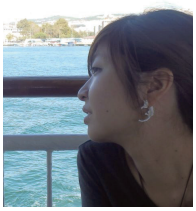
■ **専門分野**　スポーツ健康科学／発育発達学

■ **研究者の道に進んだきっかけ**　学部１回生の夏、「陸上競技のトラックはなぜ左回りなのか？」という素朴な疑問が浮かび、研究に触れるきっかけとなりました。その後、紆余曲折はありながらも、子どもと関わることが好きであり、自ら発見した研究データによって一人でも多くの子どもの将来を豊かにしたいと思い、研究者の道に進みました。

■ **研究内容紹介**　「走る」という能力はあらゆるスポーツに関連した能力であり、将来スポーツ選手を目指すジュニアアスリートにとって重要です。また、一般の子どもにとっても親しみのある体力であり、向上することで喜びを感じやすい能力でもあります。今回は、小学生の足を速くするためにはどんな運動を行ったらよいのかについてご紹介するとともに、現在行っている運動介入について紹介致します。

枝木 妙子（先端総合学術研究科 一貫制博士課程・日本学術振興会特別研究員 DC2）

戦中期の新聞・婦人雑誌における ファッションとしてのモンペ



■ **専門分野**　近代服飾史学

■ **研究者の道に進んだきっかけ**　着倒れの街といわれた京都で着物を研究したら面白いのではと思い、気づけば博士課程になっていました。

■ **研究内容紹介**　大正期から昭和初期にかけて日本では、「大正ロマン」や「ハイカラ」といわれる斬新なデザインの着物が生まれました。しかしこの時勢は長く続かず、日本は徐々に戦争に邁進していきます。現在、戦時中の人々は苦しい生活を強いられ、着飾ることなどできなかったという印象があります。
本発表では、戦中期から女性が着用し始めたとされる「モンペ」に注目し、モンペが野良着としてではなく、新鮮な衣服として戦中に普及していったことを明らかにします。そしてモンペが一つのファッションとして捉えられることをご紹介します。

常木 佳奈（文学研究科 博士課程後期課程・日本学術振興会特別研究員 DC2）

口絵にみる近代木版出版文化

■ **専門分野**　日本文学

■ **研究者の道に進んだきっかけ**　大学での学びを通じて、文学作品がどのように〈つくられ〉、〈読まれた〉かという問題意識をもつようになり、このテーマを追求したいという思いから研究者を志すようになりました。

■ **研究内容紹介**　明治期は印刷や製本の技術、用紙が急速に近代化した時代でした。こうしたなか、職人らの仕事確保と木版再興の狙いから生まれたのが近代木版口絵です。これら口絵は同時代の文化を窺い知ることができる貴重な資源であるにも関わらず、その形態的特徴ゆえに十分な研究がなされていません。このような背景を踏まえ、私は、デジタルヒューマニティーズという視点から近代木版口絵の体系的研究を試みています。今回は口絵を切り口に、近代期における木版出版文化について考えてみたいと思います。

野島 晃子（先端総合学術研究科 一貫制博士課程）

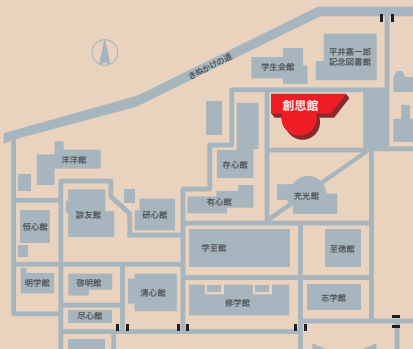
“コミュニケーション能力”に翻弄されるわたしたち

■ **専門分野**　コミュニケーション教育研究、社会言語学

■ **研究者の道に進んだきっかけ**　幼少の頃からことばに興味・関心がありました。社会人になり企業で勤務するなかで、ことばが人と人を、仕事と仕事をつなぐ場面、またその反対の場面をみてきました。その時々に感じた「なぜ」の正体を知りたくなり大学院に進みました。言語学やコミュニケーション学の理論を学ぶうちに、探求することや人に伝えることのおもしろさにとりつかれ今に至ります。

■ **研究内容紹介**　“コミュニケーション能力”と聞いて何を思い浮かべますか。誰とでも気さくに話せること？人前で上手に話すこと？とくに昨今の就職活動とは切り離すことができない要素の一つだと言われています。そのため、学校教育においてコミュニケーション能力育成の必要性がさかんに指摘されています。では“コミュニケーション能力”とはいったい何を指すのでしょうか。このことばを取り巻く混沌とした状況や課題について、コミュニケーション教育の歴史が長いアメリカとの比較を交えてお話しします。

［会　　場］　立命館大学衣笠キャンパス　創思館１階　カンファレンスルーム
［日　　時］　11月火曜日・12月第１火曜日　12:20▶12:50
［主　　催］　衣笠総合研究機構、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）、大学院課
［お問合せ］　衣笠リサーチオフィス　TEL: 075-465-8224 ／ FAX: 075-465-8342



RITSUMEIKAN GLOBAL INNOVATION RESEARCH ORGANIZATION R-GIRO

ライスボールセミナー、Facebookページも CHECK！
https://www.facebook.com/riceballseminar